AWSの Observability (可観測性)の全体像

~ Amazon CloudWatch とオープンソースの活用~

津和﨑 美希 技術統括本部 ソリューションアーキテクト アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社



自己紹介

名前:津和﨑美希(つわざきみき)

職種:ソリューションアーキテクト

経歴

・前職ではSlerにて、オンプレミス・クラウドでの構築/運用を担当。



主な業務内容はインフラ設計/構築/試験/運用/移行/追加構築計画・実作業と幅広く担当し、オンコール対応や復旧のための調査・データセンターでのオペレーションも経験。

好きなAWSサービス

AWS Management Console/Amazon CloudWatch

本セッションの前提

対象者

- AWSをご利用になる全てのお客様
- 特に、AWSでのシステム運用に関わるお客様

ゴール

AWSにおける可観測性/Observabilityの考え方と選択肢をご紹介し、

環境別のデザインパターンを理解する。

Agenda

- AWSにおける可観測性(Observability)
- Amazon CloudWatchにおける可観測性の選択肢
- オープンソース・SaaSも含めた可観測性の選択肢
- DevOps全体に広がる可観測性と機械学習活用
- まとめ

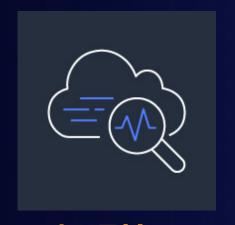


Observability(可観測性)とは?



Observability (可観測性)

- システムの動作状況を把握できている状態
- システム運用において、判断に必要な情報がきちんと取得できている状態



視認性



迅速なトラブルシューティング



顧客体験

データに基づく意思決定

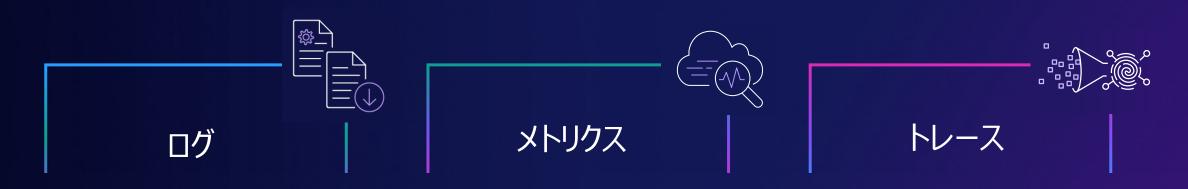
リアルタイムデータを活用したリアルタイムな意思決定





データに基づく意思決定

リアルタイムデータを活用したリアルタイムな意思決定





AWSのモニタリング・可観測性サービスは、以下のような問題を検出、 調査、および修正することにより、SLAを維持するのに役立ちます。

可用性

信頼性

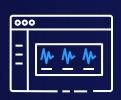
レイテンシー

可観測性のカスタマーユースケース

クラウド向けのエンタープライズツールで可観測性ニーズに対応



インフラ・アプリケーション 監視



データの可視化



傾向を見つけ 課題の関連性を知 る



現実のユーザー体験を _____ 定量化する



モダンアプリケーション を可観測に



開発者がインサイト を得られる



復元力の高いアプリケ ーションを構築する



既存のサードパーティ ツールとの統合



AWSにおけるObservabilityの全体像

MONITORING & OBSERVABILITY

Container Insights Lambda Insights CloudWatch ServiceLens **Synthetics**

> Contributor **Insights**





CloudWatch Logs



AWS X-Ray



カスタム 連付け・収 集・構成な

Amazon Managed Grafana





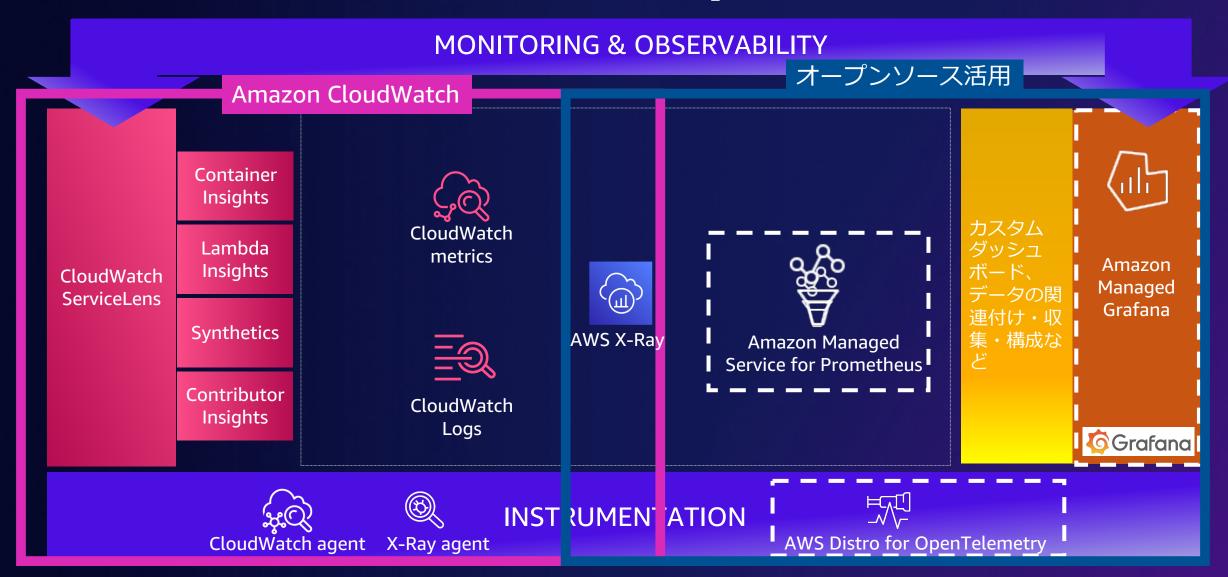


INSTRUMENTATION



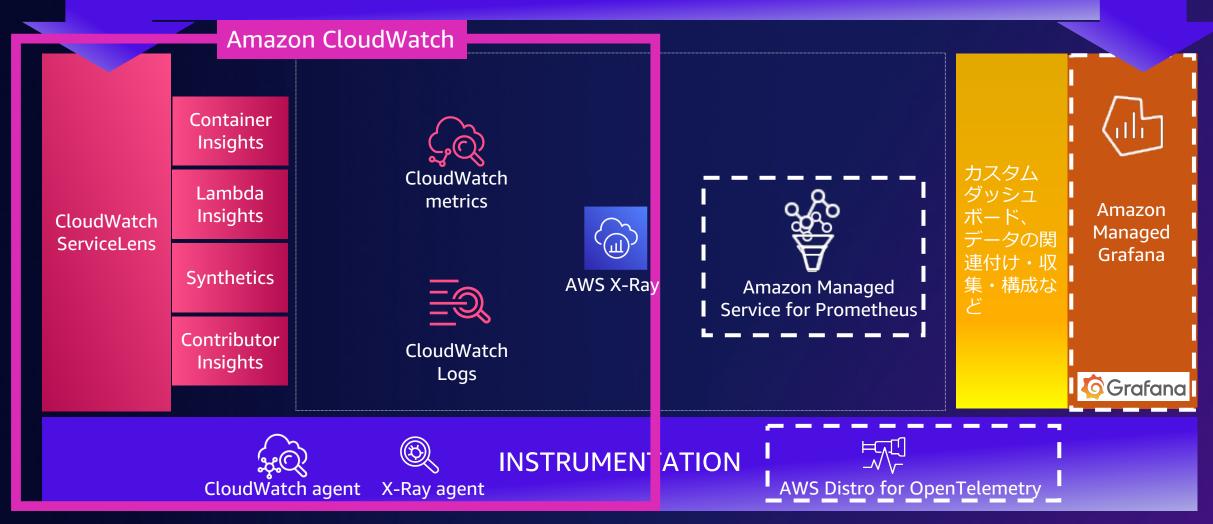


AWS におけるObservabilityの全体像



AWS におけるObservabilityの全体像

MONITORING & OBSERVABILITY



Amazon CloudWatchにおける 可観測性の選択肢



re:Invent 2021以前



[タグベースの視覚化] CW Metrics Explorer



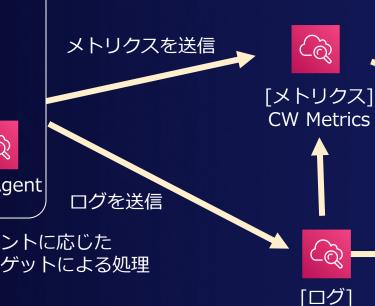


[外形監視]

CW Synthetics

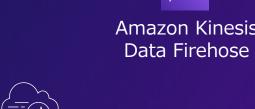
event-base time-base [イベント]

Amazon EventBridge



「アラーム」 CW Alarms にrics 「メトリクスストリーム」 CW Metrics Stream ログの可視化

メトリクスに応じた アクションの実行



[ログ分析] CW Logs Insights

[構造化ログによるメトリクス]

CW Container Insights / Contributor Insights



Lambda Insights

CW Logs

[アプリケーションコンポーネントのメトリックス] Application Insights

%CW = CloudWatch



re:Invent 2021以前









メトリクスに応じた アクションの実行

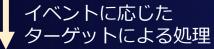


メトリクスを送信 ログを送信 応じた による処理

「メトリクス」 CW Metrics









ර්බූ





[イベント]

Amazon EventBridge

[構造化口グによるメトリクス]

CW Container Insights / Contributor Insights



[アプリケーションコンポーネントのメトリックス] Application Insights

※CW = CloudWatch



re:Invent 2021以前

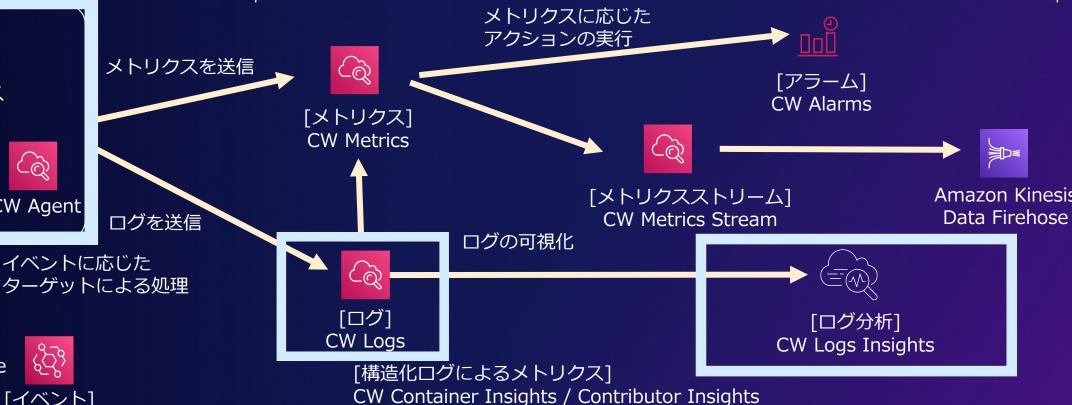








[トレース] CW ServiceLens



event-base time-base [イベント]

Amazon EventBridge



[Lambda拡張機能によるメトリックス]

Lambda Insights

[アプリケーションコンポーネントのメトリックス] Application Insights

%CW = CloudWatch



メトリクスを送信

ログを送信

re:Invent 2021以前

[ログ分析]



[タグベースの視覚化] **CW Metrics Explorer**





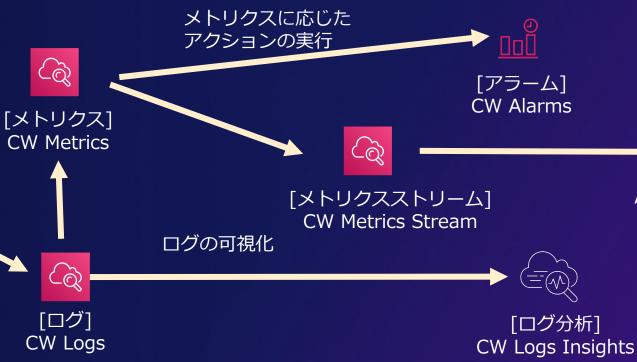
[外形監視]

CW Synthetics

イベントに応じた ゲットによる処理



Amazon EventBridge



[構造化口グによるメトリクス]

CW Container Insights / Contributor Insights

[Lambda拡張機能によるメトリックス]

Lambda Insights

[アプリケーションコンポーネントのメトリックス] **Application Insights**

Amazon Kinesis

Data Firehose



re:Invent 2021以前



[統合] CW Dashboards



[タグベースの視覚化] **CW Metrics Explorer**

[アラーム]

CW Alarms





メトリクスに応じた アクションの実行





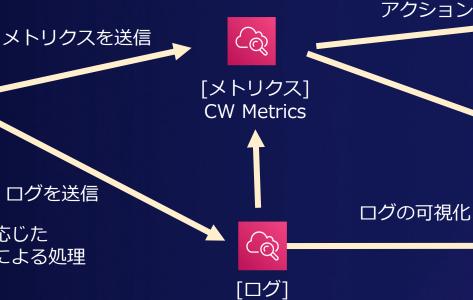
イベントに応じた ゲットによる処理





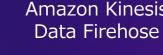
[イベント]

Amazon EventBridge



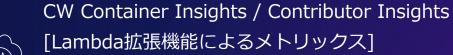
CW Logs

[メトリクスストリーム] **CW Metrics Stream**









[Lambda拡張機能によるメトリックス]

[構造化口グによるメトリクス]

Lambda Insights

[アプリケーションコンポーネントのメトリックス] **Application Insights**



クラウドネイティブなObservabilityの活用例



Business owner



Developer



Infra/
DevOps Engineer



Business Owner の活用例

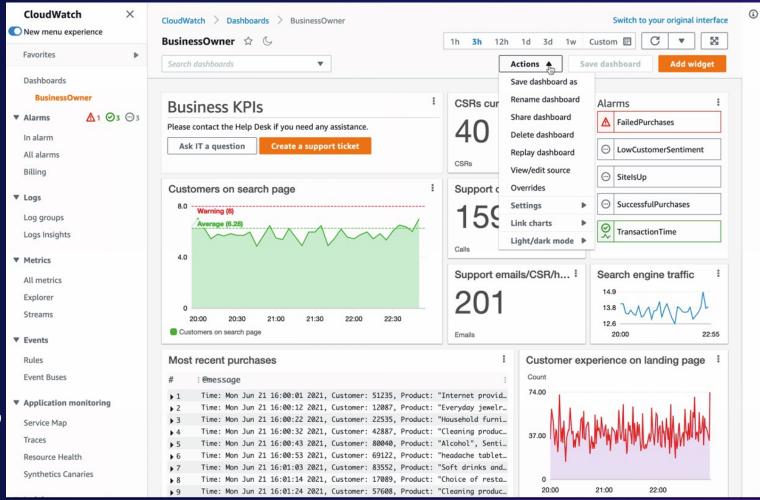


Business owner

- 保存したダッシュボードを共有
- KPIの数値を表示
- ページビューのメトリクスをグラフ化
- ビジネスアラームの状態を可視化
- 複数AWSアカウント・複数リージョンの 情報を表示可能



KPIの状況確認に必要な情報を確認できるDashboardを作成。 複数の AWS アカウントと複数のリージョンの情報をコンソールに表示。



Amazon CloudWatch を使用したクロスアカウントクロスリージョンダッシュボード

https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/cross-account-cross-region-dashboards-with-amazon-cloudwatch/

Cross-account cross-Region CloudWatch console

https://docs.aws.amazon.com/AmazonCloudWatch/latest/monitoring/Cross-Account-Cross-Region.html

Create Cross Account & Cross Region CloudWatch Dashboards

https://youtu.be/eIUZdaqColg



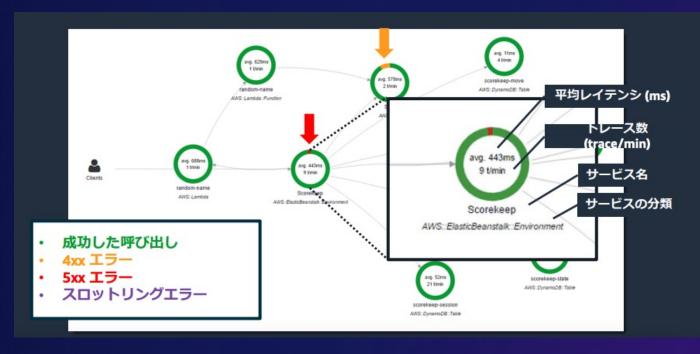
Developer の活用例



- Developer
- コンポーネント間の遅延・エラーの状況
- API・AWSサービスごとのレイテンシを
- ブレイクダウンして表示



マイクロサービスの健全性・パフォーマンス・可用性の視覚化と分析を AWS x-Rayと連携して実現







Developer の活用例

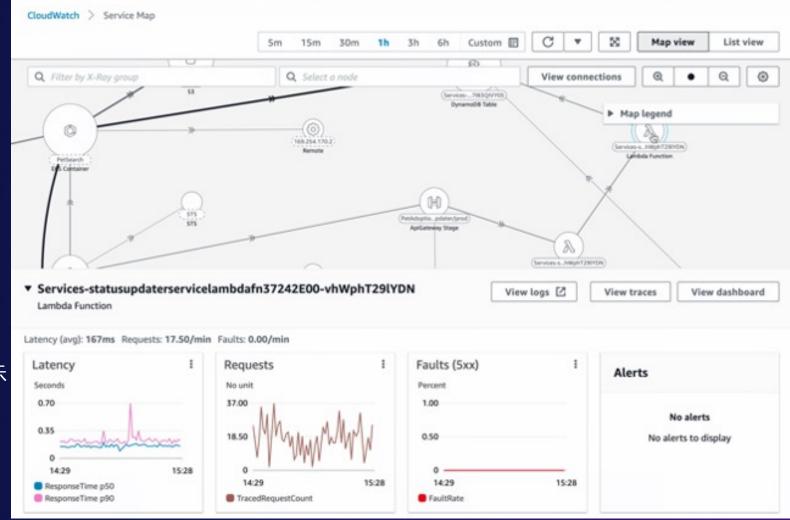


Developer

- CW ServiceLensはx-Ray と連携
- Service Mapに遅延やエラー等の情報を表示
- トレースだけでなく、ログやメトリクスも 単一のツールから確認可能



マイクロサービスの健全性・パフォーマンス・可用性の視覚化と分析を AWS x-Rayと連携して実現



Amazon CloudWatch ServiceLens を使用して高度に分散化されたアプリケーションを視覚化して監視する

https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/visualize-and-monitor-highly-distributed-applications-with-amazon-cloudwatch-servicelens/ Using ServiceLens to monitor the health of your applications

https://docs.aws.amazon.com/AmazonCloudWatch/latest/monitoring/ServiceLens.html



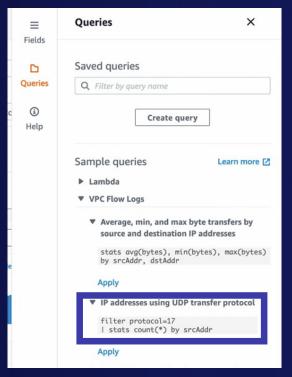
Infra/ DevOps Engineer の活用例



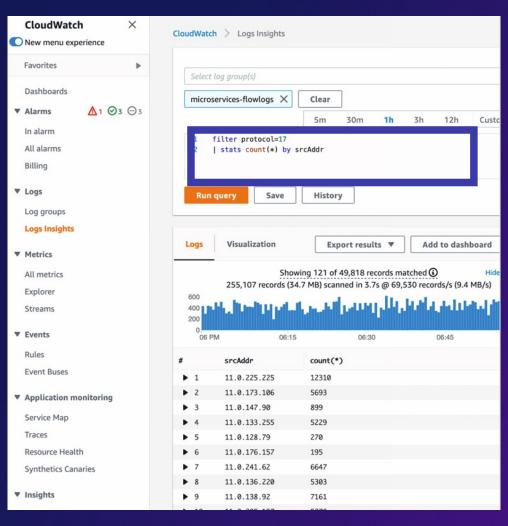
Infra/
DevOps Engineer



Sample Queriesを活用して Amazon CloudWatch Logs のログデータをインタラクティブに検索し分析



- UDP接続に絞って、Source IPごとのアクセス数をCount
- 時系列のグラフでも表示



re:Invent 2021発表











[トレース] CW ServiceLens



メトリクスに応じた アクションの実行

[タグベースの視覚化] CW Metrics Explorer



メトリクスを送信

ログを送信

イベントに応じた ターゲットによる処理



[メトリクスストリーム] CW Metrics Stream



ログの可視化



∠්බූ

CW Logs

[ログ分析]

[アラーム]

CW Alarms

CW Logs Insights

event-base time-base

[イベント]

Amazon EventBridge



CW Container Insights / Contributor Insights

[Lambda拡張機能によるメトリックス]

Lambda Insights

[アプリケーションコンポーネントのメトリックス]

Application Insights





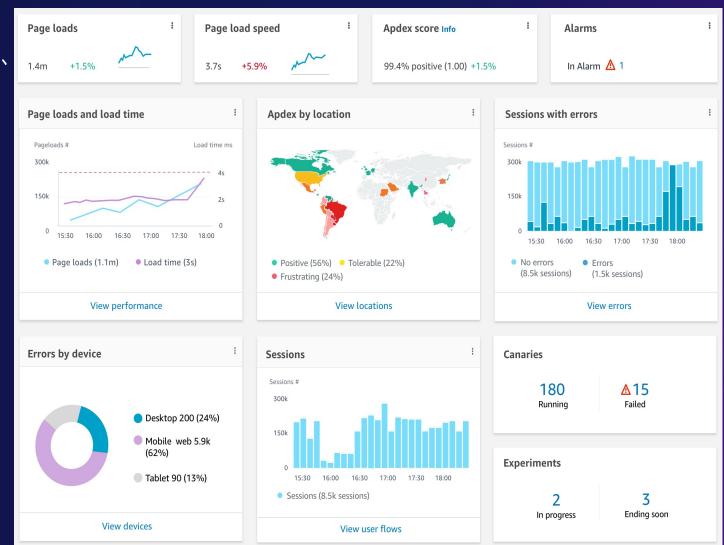
Amazon CloudWatch RUM (Real-User Monitoring)

エンドユーザーの体験そのものをモニタすることでユーザ体験の改善を実現

2021/12 NEW RELEASE

リアルユーザーのパフォーマンスをモニタし、 ブラウザやデバイスの種類、物理的ロケー ション、ネットワークの接続性の問題などを 把握できる

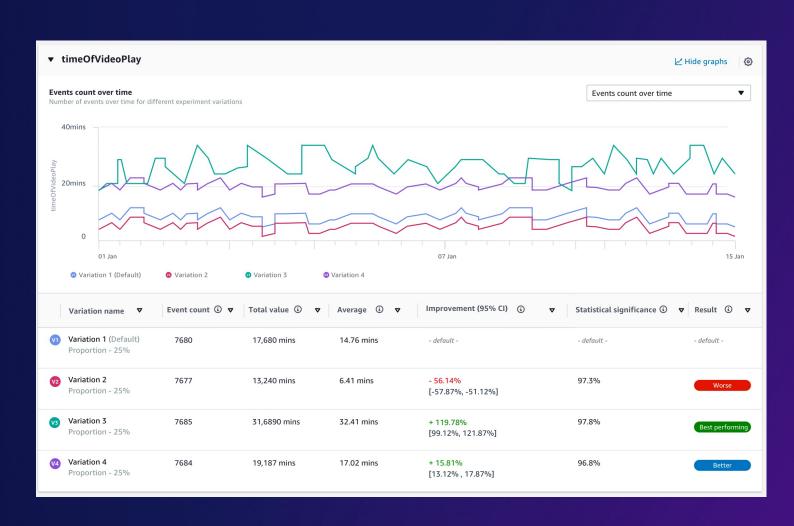
- ダッシュボードでページの読み込み順序や JavaScript/HTTPレスポンスのエラーなど、パフォーマンス問題に関する情報を可視化
- 同じ問題の影響下にあるユーザセッション数を提示 するため、改修の優先順位を付けることが容易
- Amazon CloudWatch ServiceLens、AWS X-Ray と組み合わせるとクライアント・サーバサイドの相 関関係トレースも実現できる



Amazon CloudWatch Evidently 2021/12 NEW RELEASE

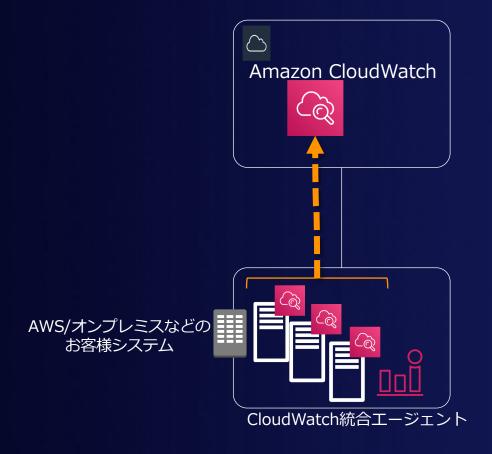
機能変更・リリース時に、データに基づいた良否の判断を可能に

- A/Bテストやフィーチャーフラグと いった手法でどちらの選択肢が望まし いか検証する際に、ユーザの挙動をモニタリングするサービス
- A/Bテスト、フィーチャーフラグで検証を行う際に、データに基づいた判断を支援。開発者が新機能を安全に評価できる
- トラフィックをコントロールするスケ ジュール機能や、問題発生時にロール バックするアラーム機能を備える
- Amazon CloudWatch RUMと統合されており、RUMのメトリクスを利用可能



現在のAmazon CloudWatch Agent

2022/2 新機能追加



よくあるお悩み Amazon CloudWatchにログを集約したいが、 ログ出力が膨大で料金が心配

● 解決策

✓ Amazon CloudWatch Agentのログフィルタ式のサポートで、 指定した条件を満たすログイベントのみを収集可能に

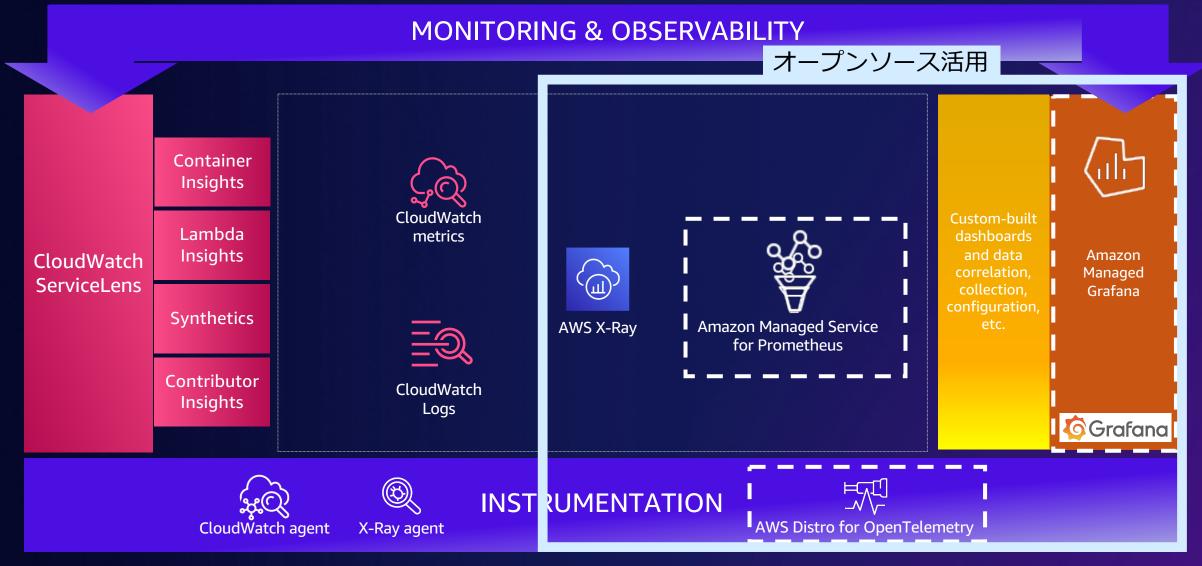
※Amazon CloudWatch LogsのCloudWatch使用状況メトリックスを活用することで、CloudWatch Logs API サービスクォータに近づいたときにアラームを通知することも可能。

2022/2 Amazon CloudWatch Agent adds Support for Log Filter Expressions
https://aws.amazon.com/about-aws/whats-new/2022/02/amazon-cloudwatch-agent-log-filter-expressions/
2021/8 Amazon CloudWatch Logsでの使用状況メトリクスのサポートを開始
https://aws.amazon.com/ip/about-aws/whats-new/2021/08/amazon-cloudwatch-logs-now-supports-usage-metrics/

オープンソース・SaaSも含めた可観測性の選択肢



AWS におけるObservabilityの全体像

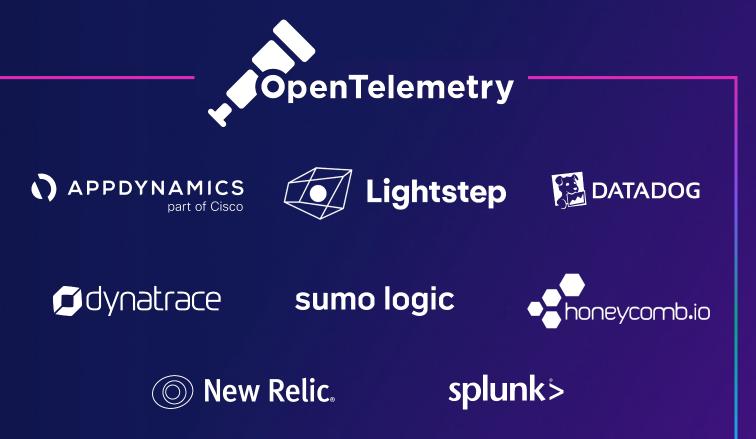


Working with the open source community

LEVERAGE OPEN SOURCE WITH OUR MANAGED OBSERVABILITY SERVICES







AWS Distro for OpenTelemetry

AWS によりサポートされるOpenTelemetryのオープンソースディストリビューション



- ・AWSによるセキュリティ、パフォーマンステストとサポート
- ・AWS コンテナと AWS Lambda コンソールから、 ワンクリックでのデプロイと設定が可能
- ・CloudWatch、X-Ray、パートナーソリューション等を含む AWS モニタリングソリューションのExporterを用意

https://aws-otel.github.io/

Amazon Managed Service for Prometheus (AMP)

コンテナ環境向けのモニタリングとアラーティングのマネージドサービス



- Prometheusクエリ言語(PromQL)を利用して、AWSまたはオンプレのコンテナワークロードを監視できる
- ・ワークロードの拡大縮小に応じて自動的にスケーリング AZをまたいだレプリケーションもサポート
- ・IAMによるアクセス権限制御や、PrivateLinkによるセキュアなアクセスを提供。API呼び出しはCloudTrailで記録される。
- ・サービス検出・メトリック収集にAWS Distro for OpenTelemetry が利用可能。 また、Amazon Managed Grafanaとの連携による リッチなデータ可視化も

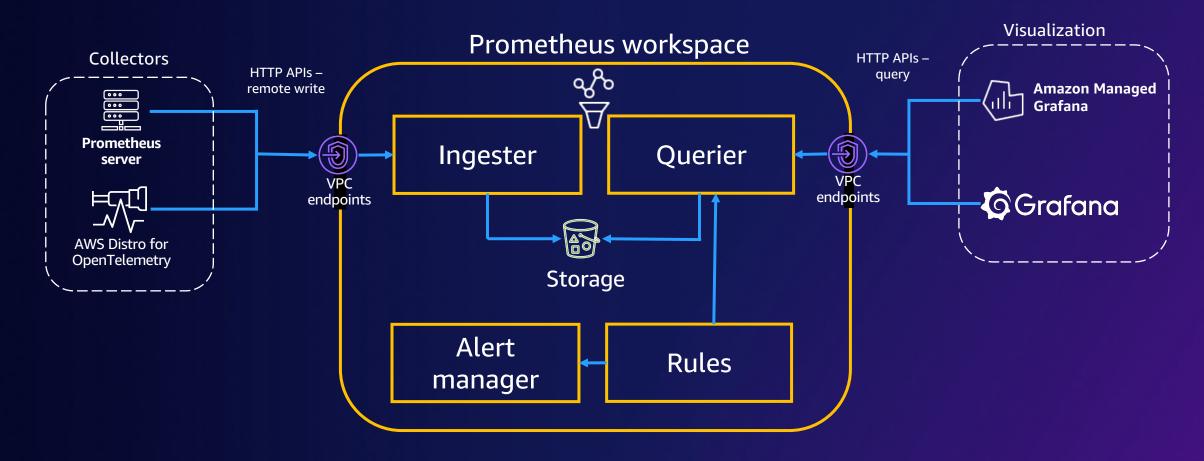
Amazon Managed Grafana (AMG)

Grafana Labsと連携して開発された、フルマネージドなデータ可視化サービス



- ・複数のデータソースからのメトリックやログを視覚化できる
- ・Grafanaサーバの構築、スケーリング、パッチ適用などのメンテナンスは AWSが実施。サーバ運用の手間をオフロードできる
- ・AWS SSOと統合されており、ユーザ毎にアクセスできるダッシュボードと データソースにシームレスなアクセスが可能
- ・AWSアカウントとリソースの検出機能
- ・APIを利用して既存のGrafana環境からクエリとダッシュボードを インポート可能

オープンソース observability - 構成例





DevOps全体に及ぶ可観測性とAI活用



Organizations
worldwide seek to
improve their
pace of innovation
through DevOps
DevOpsation Language Contractions
The Contraction of the Contracti



DevOpsテクノロジーは劇的に 進化してきたが まだチャレンジングな領域



同時実行・セキュリティ・機密 情報の取り扱いに関連した問題 は専門家の評価を必要とし、既 存のメカニズムをすり抜ける場 合がある

次世代のDevOpsで迅速なイノベーションを実現

機械学習でDEVELOPERの専門分野をさらにサポートする

従来のDevOps

- ☑ 手動プロセス
- ☑ 高頻度なデプロイ
- ☑ 低速なイノベーションサイクル

次世代のDevOps

- よりよい自動化とプロアクティブなメカニズム
- プロダクションを監視するための自動アラーム
- 喚 CI/CDによる迅速な反復サイ クル



Add intelligence to your developer operations

開発運用にインテリジェンスを



Amazon CodeGuru

セキュリティの脆弱性を検出し、 コードレビューを自動化する



Amazon DevOps Guru

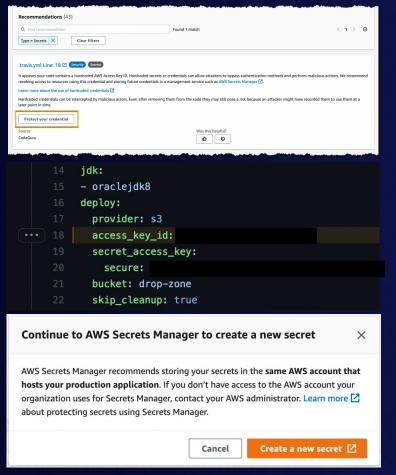
機械学習の技術によりアプリケーションの運用上の問題点や改善ポイントを指摘することで、可用性の向上を容易にする



機械学習を用いたObservabilityの例

CodeGuru Reviewer Secrets Detector

ソースコードや設定ファイルの 機密情報の埋め込みを検知



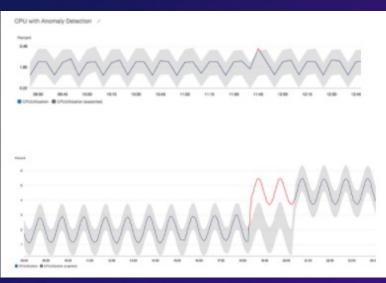
Amazon DevOps Guru for RDS

機械学習を用いてRDSに関する性能問題の検知と解決策を提示



Amazon CloudWatch anomaly detection

機械学習を用いてメトリクスの 期待値のモデルを作成しアラームに活用



他にも、AWS Cost Anomaly Detectionなど 様々なシーンで機械学習が活用可能

まとめ



まとめ

- ログ・メトリクス・トレースを取得し、可観測性を向上することはデータに基づく 意思決定に役立つ
- Amazon CloudWatchをはじめとしたマネージドサービスを活用することで、運用 負荷少なくObservabilityの実現が可能
- オープンソースを活用する場合も、マネージドサービスで管理負荷を軽減しながら、 コミュニティのノウハウも取り入れられる
- 機械学習を用いることで、DevOpsの様々なシーンにおける人力での作業・判断を 軽減可能

Next Action: One Observability Workshopをやってみよう!



One Observability workshop

One Observability WorkshopでAmazon CloudWatchを始めとした Observability関連サービスの様々な機能を体感いただけます。

https://observability.workshop.aws/



aws workshop studio

One Observability Workshop

X

AWS Observability の概要

Event Engine へのアクセス

- ▶ 環境設定
- CloudWatch ServiceLens
- AWS X-Ray
- Contributor Insights
- CloudWatch Synthetics
- CloudWatch RUM
- CloudWatch Evidently

One Observability Workshop

One Observability Workshop

One Observability デモ ワークショップへようこそ。このワークショップは、AWS が提供するさまざまなツールセットで、アプリケ ーションの監視と監視をセットアップするための実践的な体験を提供することを目的としています。

ワークロードがオンプレミスでも AWS でも、アプリケーションが巨大なモノリスでも、最新のマイクロサービスベースのアーキテ クチャでも、AWSのオブザーバビリティツールは、アプリケーションのパフォーマンスと正常性に関するより深い洞察を得るのに役 立ちます。

AWSのコスト効率に優れたネイティブソリューションは、さまざまなログ、メトリック、トレースデータを手動で選り抜くことな く、ボトルネック、問題、欠陥を特定できる強力な機能を提供します。

このワークショップで遊んで、ご意見をお寄せください。



Thank you!

